

【行動の評価】

- ・教育上の課題の取り組み状況、子どもを取り巻く環境についての情報収集
- ・全ての子どもに共通して行うもの

○観察の場：普段の生活場面が観察できることが望ましい。(学校での活動場面・家庭生活場面・療育場面など)

【観察による評価】

実験的観察法	対象とする行動が生じるような環境を設定し、短期間のうちに数多く観察する。
自然観察法	行動の発生に人為的な操作を加えないで、自然な事態の中での行動を観察する。
参加観察法	研究者が対象の児と関わりながら観察する。
非参加観察法	研究者が対象児と関わりを持たずに観察する。(間接観察：ビデオなど)
その他	日誌法、時間見本法、事象見本法

【機能分析のための行動の記録】

◎行動とは…人間を含む動物の活動や行い全般を指す言葉。

生きている人にしかできないことかどうか。(生きている人しかできない行動＝行動)

例) ごはん中の集中力のなさ

- ご飯を食べない
- 集中していない



- テレビを見ている
- 10分で席を立つ

【機能分析を行うメリット】

強化因の特定	行動がなぜ維持しているのかが分かる。
先行子操作	引き金となっている要因を取り除くことができる。
消去	起こっても、その行動を強化しない体制を整えられる。
分化強化	適切な行動を増やすと同時に、問題行動を減らすことができる。
代替手段	問題行動に変わる適切な行動をとらえやすい。



◎行動の機能(注目が得られる、回避できる等)が分かってくると、対処法を見つけやすくなる。